

洗足学園音楽大学大学院
コンチェルトの夕べ

2022年10月9日(日)開演 15:00 (開場 14:30)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

指揮: 現田 茂夫

演奏: 洗足学園音楽大学 大学院室内管弦楽団

独奏: 高橋 芽生	大学院1年(マリンバ)
速水 力	大学院1年(トランペット)
盛 醴正	大学院1年(サクソフォン)
見原 さやか	大学院2年(ピアノ)
筱崎 愛	大学院1年(ヴァイオリン)

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

Greeting

本日は『大学院コンチェルトの夕べ』にご来場いただきましてありがとうございます。

独奏する5名は、ピアノ・弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器コースでのオーディションで厳選された精鋭になります。

この演奏会は本大学院の最大の特徴である「プロフェッショナル特殊研究」の演奏研究の一環にもなっています。

前田ホールという大きな舞台から日本、世界の楽団に羽ばたく彼らに、大学院研究科教員一同より、大きな拍手をお願い申し上げましてご挨拶にかえさせていただきます。どうぞ最後までお楽しみください。

洗足学園音楽大学・大学院教授
渡部 亨

Program

J.イベール／サクソフォンと11の楽器のための室内小協奏曲

Jacques Ibert (1890-1962) // Concertino da camera for Alto Saxophone and 11 Instruments

A.コッペル／マリンバ協奏曲

Anders Koppel (1947-) // Concerto for Marimba and Orchestra

J.フンメル／トランペット協奏曲

Johann Hummel (1778-1837) // Trumpet Concerto

Intermission

L.v.ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第4番ト長調 作品58

Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Piano Concerto No.4 in G Major, Op.58

F.メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲

Felix Mendelssohn (1809-47) // Violin Concerto

Program Note

J.イベル／サクソフォンと11の楽器のための室内小協奏曲

Jacques Ibert (1890-1962) // Concertino da camera for Alto Saxophone and 11 Instruments

アルトサクソフーン協奏曲として、もっともよく知られている作品の一つである。1936年にドイツのラッシャーというサクソフォン奏者のために作曲された曲なのだが、実際は「サクソフォンの神様」と呼ばれることもあるマルセル・ミューズに試奏してもらい、その意見を取り入れて作曲された。

題名には「11の楽器」はフルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスであり、その名のとおり室内楽編成のための協奏曲となっている（実際には弦楽器がもう少し増強されることもある）。同じイベルのフルート協奏曲よりも編成、時間ともに小規模ではあるが、その分とてもよくまとまった感じの曲となっている。曲は3つの楽章から成っているが、最後の2つの楽章は続けて演奏される。

(盛 禮正)

A.コッペル／マリンバ協奏曲

Anders Koppel (1947-) // Concerto for Marimba and Orchestra

コッペルはデンマーク出身の作曲家である。また、デンマークで著名なロックバンド「Savage Rose」のメンバーとしても活動していた過去を持つ。マリンバ協奏曲は全部で4曲あり、打楽器作品もいくつか作曲している。その他にも、バレエ音楽や室内楽、ミュージカル音楽、映画音楽など幅広いジャンルで作曲活動を行なっている。

このマリンバ協奏曲第1番は、1995年第1回ルクセンブルク打楽器コンクールの最終選考のために書かれた曲である。

第1楽章 マリンバソロから始まり、全編にわたり堂々とした楽章である。

第2楽章 祈りを感じさせるオーケストラのコラールをバックにマリンバが細かく即興的に動き、中間部では綺麗なヴァイオリンソロが歌われる。

第3楽章 今までの雰囲気とはガラリと変わり、明るく軽快なテンポでマリンバが細かく動き回る。当初は書かれていなかったマリンバのカデンツァが、のちに改定され曲の後半に書き加えられた。そのカデンツァでは、マリンバの様々な表現を繰り広げ、約2分30秒の長い独奏となる。その後、オーケストラも加わり、曲は終盤に向かい盛大に終わる。

(高橋 芽生)

J.フンメル／トランペット協奏曲

Johann Hummel (1778-1837) // Trumpet Concerto

ヨハン・ネポムク・フンメルは、ハンガリー出身のオーストリア系の作曲家兼ピアニスト。少年時代にモーツァルトの家に住込みで2年間ピアノを学ぶ。また、ハイドンにオルガンを学びベートーヴェンと親交を結ぶなど、生前はヨーロッパ最高の作曲家・ピアニストの一人に数えられていた。

この協奏曲は、キートランペット(Key Trumpet)と呼ばれる楽器によって演奏されることを想定して書かれてあるもので、それまでの主流であったナチュラルトランペットで演奏することが難しい曲中での転調や、半音階などを効果的に取り入れて書かれた曲となっている。また、モーツァルトらの主題が曲中に引用されていることから、同時代の作曲家たちへのリスペクトが伺える。

この曲を書いた翌年の1804年、ハイドンからの推薦でエステルハージ家のコンサートマスターに就任、その後ハイドンの引退のために宮廷楽長に就任する。

本来ホ長調で書かれているこの協奏曲だが、本日は変ホ長調で演奏する。

(速水 力)

L.v. ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第4番 ト長調 作品58

Ludwig van Beethoven (1770-1827) // Piano Concerto No.4 in G Major, Op.58

このピアノ協奏曲は1806年に作曲された。全3楽章で構成されており、5つのピアノ協奏曲の中で唯一、ピアノ独奏から演奏が開始される協奏曲である。交響曲第5番「運命」の冒頭に登場する「運命の動機」が含まれた主題が奏され、オーケストラがそれを引き継ぐ。従来のオーケストラ伴奏に徹するスタイルを覆し、オーケストラとピアノが対話をさせるかのような手法を用いている。当時使われていたピアノは、現在のモダンピアノと比べ音量が小さかったため、オーケストラと対等でいられるよう独奏ピアノに分散和音やトレモロを取り入れるなど、音響効果を生み出している。

第1楽章 Allegro moderato

ト長調 4/4拍子、協奏的ソナタ形式。前述のように「運命の動機」を含む穏やかな主題がピアノ独奏でいきなり奏されると、オーケストラはロ長調によりそれに応え、新鮮な印象を受ける。カデンツァはベートーヴェン自身により2種類が書かれている。一つは100小節あり、多くのピアニストはこちらを演奏している。もう一つは50小節あり、マウリツィオ・ポリーニやアルフレッド・ブレンデル等が演奏した録音により確認することが出来る。

第2楽章 Andante con moto

ホ短調 2/2拍子で自由な形式。オーケストラが低音に抑えられた弦のユニゾンだけとなり、即興的で瞑想的な音楽を歌うピアノと、淡々と対話を続ける。

第3楽章 Rondo Vivace

ト長調 2/4拍子で Rond 形式。ト長調であるが、主題はハ長調で始められる。付点リズムの Rond 主題が躍動感をもって奏でられる。快活な Rond 主題が跳躍進行であるのに対し、副次主題は順次進行を基盤としており、より旋律的でカンタービレな性格を有している。カデンツァはベートーヴェン自身により1種類書かれ、35小節ある。ヴィルヘルム・バックハウス作によるドラマティックで技巧的なカデンツァも有名。

(見原 さやか)

F.メンデルスゾーン／ヴァイオリン協奏曲

Felix Mendelssohn (1809-47) // Violin Concerto

フェリックス・メンデルスゾーンは1809年に、ドイツのハンブルクでユダヤ系の家系に誕生した。銀行家の父を持ち比較的裕福であり、姉と共にピアノなどの音楽の手ほどきを受け、神童として世に知られていた。9歳にして演奏会に初出演し、作曲は10歳から始めていた。同世代の音楽家にロベルト・シューマンやフレデリック・ショパンなどが挙げられ、彼らとの交流もあった。38歳という若さで亡くなりながらも、数多くの名曲を残したメンデルスゾーン。ヴァイオリン協奏曲は2曲かいており、ホ短調 Op64は3大ヴァイオリン協奏曲のひとつに称され、「メンコン」の愛称で親しまれている。

この曲は彼が常任指揮者を勤めていた、ライプツヒゲヴァントハウス管弦楽団のコンサートマスター、フェルディナンド・ダーヴィトへ送られた曲である。作曲の際に技術的なアドバイスをダーヴィトから受けながら、1838-1844の6年かけて作曲された。3楽章で構成され、急-暖-急と一般的な形式をとっている。

第一楽章 Allegro molto appassionato

当時には珍しく、オケによる序奏が2小節でソロがすぐに第一主題を奏でる。オケによる経過主題を引き継ぎ、その後第2主題もオケから貫く。展開部では3連符が多く用いられ、メンデルスゾーン自身が書いたカデンツァに入る。カデンツァの終わりも明確にされておらず、ソロのアルペジオにフルートが第1主題をのせだんだんと再現部に移行する。ソロによる第1主題の再現はされず、第2主題がホ長調で再現される。そのままCodaへ入る。

第二楽章 Andante

三部形式が取られており、静かで穏やかな旋律が奏でられ、中間部では対照的に短調で動きのあるテーマが使用され、また落ち着いたヴァイオリンの旋律に戻っていく。

第三楽章 Allegretto non troppo

前楽章の余韻を残した序奏の後、軽やかに躍動感溢れるメロディが奏でられる。この楽章はオーケストラとソロとの対話が特に印象的であるが、終盤に向かっていくと共に一体となり最後は華々しく幕を閉じる。

(筱崎 愛)

Profile

指揮 / 現田 茂夫

東京生まれ。東京音楽大学作曲指揮専攻(指揮)で汐澤安彦、三石精一両氏に師事。その後東京藝術大学で佐藤功太郎、遠藤雅古両氏に師事。1985年安宅賞受賞。1986年二期会オペラ「ヘンゼルとグレーテル」でオペラ・デビュー後、二期会オペラ「こうもり」等で活躍する一方、オーケストラコンサートでも実績を積む。1987年、新星日本交響楽団指揮者に就任。1988年来日中のドレスデン・フィルに客演。1990年新星日響とヨーロツパ演奏旅行。同年ウィーン国立歌劇場に国費留学。1991年スロヴァキア・フィルに客演。1992年プラハ国立歌劇場日本公演の指揮者として客演。同年プラハ交響楽団の定期公演に初登場し、翌年“プラハの春”での“佐藤しのぶリサイタル”は、センセーショナルにヨーロツパで放送された。1996年より13年間神奈川フィルハーモニー管弦楽団を指導し飛躍的に躍進させ、その功績も称えられ2009年4月より名誉指揮者の称号を得る。他の主要オーケストラとも数多く共演し高評を得ている。また、世界的チェリスト故ロストロポーヴィチと上皇后陛下の古希祝賀コンサート等で共演し高い評価を得た。オペラ指揮者としても経験豊かで、関西二期会、東京二期会を中心に数多くの公演を行なっている。“佐藤しのぶドラマチック・リサイタル”(全国ツアー)、“夕鶴”のカザフスタン/ウズベキスタン/東京公演、“天守物語”等、日本のオペラも積極的に行なっている。2004年秋にはブラチスラヴァでスロヴァキア国立歌劇場の「椿姫」を指揮し、さらに同日本公演でも好評を博した。2002年から15年は錦織健プロデュースオペラの音楽監督も務め全国公演。2011年はアンサンブル金沢と金沢歌劇座・兵庫県立芸術文化センター他(5都市6公演)で「椿姫」を公演。14年には市川右近(現三代目市川右團次)新演出“夕鶴”の全国公演も行い高評を得、16年に再演を行った。アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクール(イタリア/トレント)の審査員や、NHKの「FMシンフォニー・コンサート」のパーソナリティを3年間務めるなど、バラエティに富んだ活動を行なっている。



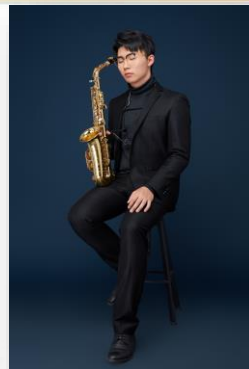
©K.Miura



©K.Miura

サクソフォン独奏 / 盛醴 正 (院1年)

中国南京出身。中国蘇州大学音楽学院卒業。大学在学中、Johnny Salinas と薛馭生各氏に師事。蘇州大学吹奏楽でサクソフォンの首席として演奏をした。2022年洗足学園音楽大学大学院コンチェルトコンクールにおいてソリストに選抜。サクソフォーンを池上政人、本堂誠各氏に師事。



マリンバ独奏 / 高橋 芽生 (院1年)

宮城県出身。宮城県泉館山高校卒業後、洗足学園音楽大学に入学。9歳より打楽器を始める。東京2020夏季オリンピックのテコンドー部門に和太鼓演奏で出演。打楽器を鶴岡たみ子、寺山朋子、石井喜久子、小川佳津子、井手上達の各氏に師事。名倉誠人氏のマスタークラスを受講。



トランペット独奏 / 速水 力 (院1年)

9歳よりトランペットを始める。作新学院高等学校を経て東京音楽大学を卒業。卒業時に成績優秀者による学内卒業演奏会に出演。これまでにトランペットを古田俊博、杉木峯夫、アンドレ・アンリの各氏に、室内楽を津堅直弘、アンドレ・アンリ、新田幹男、杉本正毅の各氏に師事。



ピアノ独奏 / 見原 さやか (院2年)

東京都出身、8歳からピアノを始める。都立総合芸術高等学校を卒業後、洗足学園音楽大学音楽学部に入學。アンサンブル・スタディクラスに3年次より在籍し卒業。ピアノを飯野明日香、山岸真由美、室内楽を新居由佳梨に師事。2021年に洗足大学院・藝大大学院交流コンサートに出演。アンサンブル、後進の指導にも力を入れている。



ヴァイオリン独奏 / 筱崎 愛 (院1年)

10歳からヴァイオリンを始める。これまでにヴァイオリンを石川理恵子、水野佐知香に、ヴィオラを古川原裕仁の各氏に師事。オーケストラ特待生として洗足学園音楽大学に入学、卒業後同大学院在籍中。フェデリコ・アゴ스티ーニ、オレグ・クリサ、竹澤恭子などの特別レッスンを受講。2019、2020年度前田奨学金を授与され、第11回音楽大学フェスティバルに学校代表として参加。第25回長江杯国際音楽コンクール第4位。



Members

Concertmaster	宍戸 育実				
1st Violin	金子 都* 下谷 岬向*	関根 悠生*	村田 春歌*	藤本 翔大*	安藤 美陽*
2nd Violin	LI XIANGHAO 堀口 健人*	木村 光輝*	雨川 笑子*	腰高 多恵*	井上 千恵美*
Viola	加藤 可奈子	工藤 海青	高橋 楓*	北谷 茉莉子*	
Violoncello	蛭原 一智 奥平 華子*	XU LULU	YU XIANGZHOU		大友 美侑*
Contrabass	稲垣 理有*	高野 響花*			
Flute	石井 優菜 LEE CHIH-HAO	間木平 美和	村松 紀親	YUAN YUE	
Oboe	河村 真歩	佐藤 千尋			
Clarinet	椿 秀隆*	吉川 清香*			
Bassoon	前澤 美里*	吉田 南*			
Horn	中津 里菜*	佐藤 駿*			
Trumpet	佐藤 心	長田 彩希	濱欠 直毅		
Timpani	SUN MUQING		LIU ZIJIAN		

* 演奏補助要員

企画運営責任者
渡部 亨

指導教員

沼田 園子	小林 すぎ野	物集女 純子	渡邊 ゆづき	荒 庸子	羽川 真介
辻 功	勝俣 泰	古田 俊博	石井 喜久子	井手上 達	山田 徹

アカデミックコーディネーター
岩岡 一志

助手
中村 日向子